

壹升ニ付代五百銅、壹合ニ付代四十八銅略中

江戸賣弘所

酒店

芳町川岸通り

石井安兵衛

〔毛吹草三〕加賀 菊酒 紀伊 若山忍冬酒 延命酒

〔紀伊國名所圖會一名草郡〕忍冬酒所にして、其名四方に高し、その味辛甘相半して、能々胸間をすか  
せり、薩州の泡盛に比するに香氣一段の風味をまし、いと佳品なり、しかも永く酔をたもちて  
容易さむることなし、彼中山の千日酒といへるは此たぐひにやと思はる、就中毎歲國君より禁  
裏御所其御所へはもせせらる及關東へ獻したまへりたまへり、

〔張州府志十五〕土產

忍冬酒出犬山、製造勝于他方

〔紫芝園漫筆六〕紀國忍冬酒、苦辣芳烈、海内無雙、一滴下咽、直到臍下、痛快不可言也、正眞上人住傳通  
院時、紀侯餽以是物、上人見予幸純曰、子嗜忍冬酒乎、予對曰、嗜之、上人乃命侍者爲子酌之、予傾一小  
鍾、上人曰、子能盡一鍾乎、予曰、不足盡已、上人曰、請再進、予又傾一鍾、上人爲命殺曰、復請、曰、幸甚、又傾  
一鍾、上人曰、善飲哉、生也、老僧素好飲、子所知也、而不能飲、是酒子嗜之善飲哉、生也、予曰、僕亦素嗜酒、  
而不能盡數杯、唯於忍冬酒則盡數鍾、亦不甚醉性所嗜耳、況紀忍冬酒天下之佳味也、敢不盡醉、上人  
愕然曰、生可謂善飲也、

〔寛政武鑑〕紀伊中納言治寶卿 時獻上中寒新忍冬酒

〔日次紀事五月〕五日 今日端五節略市中家々中細刻菖蒲葉入酒中、而飲之、辟瘟云、

〔萬金產業袋六〕酒

ほうめいしゆ。 上白米壹石、常の酒めしにむし、かうじ米にて貳斗花をらひ、生しやうちう壹石貳  
三斗入て仕こみ、日數五十日ほどして常酒のごとくにあぐる、酒にあげて熟地黄め貳拾拾山藥  
茯苓 各拾五拾肉桂拾以上四味をあら刻にして、布の袋に入、外に黑豆七合皮よく去り 秣壹升たいたらこめ